



2022年3月10日

各 位

会社名 ポパール興業株式会社
代表者名 代表取締役社長 松井 孝敏
(コード番号：4247 東証・名証第二部)
問合せ先 執行役員管理部長 黒田 英文
(TEL 052-419-1827)

東京証券取引所市場第二部への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2022年3月10日に東京証券取引所市場第二部に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2022年3月期（2021年4月1日～2022年3月31日）における当社グループの連結業績予想は以下の通りあり、また、最近の決算情報等につきましては別添の通り（添付資料は2022年2月10日に公表済みの資料です。）であります。

記

【連結】

(単位：百万円・%)

| | 2022年3月期 (予想) | | | 2022年3月期 第3四半期累計期間 (実績) | | 2021年3月期 (実績) | |
|--------------------------|--------------------|------------|------------|-------------------------------|------------|--------------------|------------|
| | 予想値 | 対売上高 比率 | 対前期 増減率 | 実績値 | 対売上高 比率 | 実績値 | 対売上高 比率 |
| 売 上 高 | 3,399 | 100.0 | 4.5 | 2,570 | 100.0 | 3,252 | 100.0 |
| 営 業 利 益 | 382 | 11.3 | 18.6 | 283 | 11.0 | 322 | 9.9 |
| 経 常 利 益 | 385 | 11.3 | 10.2 | 312 | 12.2 | 349 | 10.8 |
| 親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益 | 258 | 7.6 | 21.9 | 218 | 8.5 | 211 | 6.5 |
| 1株当たり当期 (四半期)純利益 | 97円94銭 | | | 82円84銭 | | 80円38銭 | |
| 1株当たり配当金 (1株当たり中間配当) | 32円00銭 (16円00銭) | | | — (16円00銭) | | 30円00銭 (15円00銭) | |

(注) 2021年3月期(実績)及び2022年3月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出し、2022年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は予定期中平均発行済株式数により算出しております。

【2022年3月期業績予想の前提条件】

1. 当社グループの全体の見通し

当社グループは、接着・樹脂加工を基盤とし、顧客の様々な要望、問題を解決するため、提案、製造、供給からメンテナンスを一貫して行うサービス展開をしております。事業としては、「総合接着・樹脂加工事業」と「特殊設計機械事業」に分かれております。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、自動車業界、鉄鋼業界及びディスプレイ業界をはじめ多くの業界で工場の稼働率が回復基調で推移しております。そうした状況の中、当社グループの基幹事業である総合接着・樹脂加工事業では、工場の稼働率の回復に伴い、需要が徐々に回復していくことを見込んでおります。また、特殊設計機械事業では、主要得意先での大型案件が新型コロナウイルス感染症の感染拡大による設備投資の延期凍結等の影響を受けましたが、当社グループでのワンストップ体制を構築しコンベアシステムの販路拡大を推進し販売を徐々に増加していくことを見込んでおります。

当社グループにおける2022年3月期の連結業績については、売上高3,399百万円（前期比4.5%増）、営業利益382百万円（前期比18.6%増）、経常利益385百万円（前期比10.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益258百万円（前期比21.9%増）を見込んでおります。

当社グループでは、主力事業である「総合接着・樹脂加工事業」で収益確保を行い、「特殊設計機械事業」とのシナジー効果を最大限高めていくため、経営資源を投入し、規模に見合った経営と販路拡大、基盤強化を目指して、ROEをKPI（重要業績評価指標）としております。また、中期計画3ヵ年計画最終年度となります2024年3月期のROEについて5.0%以上を目標といたします。

2. 売上高

当社グループは当社及び連結子会社6社（㈱日新製作所、ユニカー工業㈱、㈱アールエスティ電機工業、POVAL KOGYO (THAILAND) CO., LTD.、POBAL DEVICE KOREA CO., LTD.、博宝楽輸送帯科技（昆山）有限公司）により構成され、総合接着・樹脂加工事業と特殊設計機械事業の各事業セグメントであります。売上高については、各セグメント別売上高の合計から各セグメント間の取引を連結消去した数値となります。

総合接着・樹脂加工事業における主な売上高は、各得意先の工場で使用される搬送ベルト及び駆動用ベルト（ベルト関連）に係るもの、ディスプレイ業界、レンズ業界等で使用される研磨関連部材及び研磨パッド（研磨関連）に係るものであります。ベルト関連及び研磨関連とも、得意先別の直近1年間における実績、個別案件の見込み等を勘案し、売上高を算出しております。

特殊設計機械事業における売上高は、食品業界向けに使用される回転式熱交換器、コンベアシステム等の運搬装置に係るものの他、主にケミカルプロセス分野等における回転軸で使用される密封シールとしてのメカニカルシールであります。いずれも、得意先別の直近1年間における実績、個別案件の見込み等を勘案し、売上高を算出しております。

総合接着・樹脂加工事業は、自動車・鉄鋼業界を中心にベルト関連製品の販売が堅調に推移したほか、ディスプレイガラス向け研磨部材の販売が底硬く推移したことから、第3四半期までの売上高は2,197百万円（前年同期比3.8%増）となりました。第4四半期においても、この傾向は続いており、通期では売上高2,809百万円（前年同期比4.9%増）が見込まれます。

特殊設計機械事業は、第3四半期までの売上高は372百万円（前年同期比16.2%減）と、新型コロナウイルス感染症による設備投資の先送りや凍結の影響があり減収となりました。第4四半期においても、新規案件等の延期が発生するなど厳しい状況が続いており、通期の売上高は589百万円（前年同期比2.8%減）が見込まれます。

これらの結果、全体では通期で売上高3,399百万円（前年同期比4.5%増）と見込んでおります。

3. 売上原価、売上総利益

売上原価については、材料費、労務費、経費等を積み上げて算出しております。

総合接着・樹脂加工事業における材料費については、直近1年間における実績等を勘案し見積ったうえ、原油価格の市況確認等を行っております。労務費については、人員計画に基づき見積もっております。また、経費については、各項目の直近1年間における実績等を勘案し見積もっております。なお、商品については、営業所別の直近1年間における売上原価等を勘案し見積もっております。

特殊設計機械事業における材料費については、得意先別の直近1年間を勘案し見積もっております。労務費については、人員計画に基づき見積もっております。経費については、各項目の直近1年間の実績等を勘案し見積もっております。これらの結果、売上原価は2,074百万円（前期比1.8%増）となり、売上総利益は1,324百万円（前期比9.1%増）を予想しております。

なお、昨今の原油高などの材料費の高騰については、予算への反映はしておりませんが、現時点において原油高を起因とした材料費の高騰の当期業績への影響は軽微であると認識しております。

4. 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費については、基本的に各項目の実績を勘案し、各社毎に個別で発生する費用を集計し算出しております。人件費については、人員計画に基づき総合接着樹脂加工事業及び特殊設計機械事業にそれぞれ1名増員及び定期昇給を実施することにより552百万円（前期比5.1%増）を予想しております。その他経費については、株主優待導入に係る費用100万円、営業活動におけるオンラインツールの強化に伴うホームページのリニューアル費用200万円、海外子会社の出向者交代によるバックアップの増加により旅費交通費の増加等により39百万円（前期比6.5%増）等を予想しております。これらの結果等により、販売費及び一般管理費は941百万円（前期比5.6%増）となり、営業利益は382百万円（前期比18.6%増）を予想しております。

5. 営業外損益、経常利益

営業外損益については、各社毎に個別で発生する費用を集計し、算出しております。営業外収益として、受取利息で100万円、受取配当金で240万円等を予想しております。また、営業外費用として、上場関連費用250万円等を予想しております。これらの結果等により、経常利益は358百万円（前期比10.2%増）を予想しております。

6. 特別損益、親会社株主に帰属する当期純利益

2022年3月期第3四半期累計機関において、特別利益につきましては、投資有価証券売却益で100百万円計上しております。特別損失においては、固定資産除却損で200百万円を計上しております。

これらの結果、税金等調整前当期純利益は384百万円（前期比14.9%増）となり、法人税等を差し引いた親会社株主に帰属する当期純利益は258百万円（前期比21.9%増）を予想しております。

【業績予想に関する留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、経済状況の変化や市場状況の変化等の様々な要因によって異なる場合があります。



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月10日

上場会社名 ポパール興業株式会社
 コード番号 4247 URL <https://www.poval.co.jp/>

上場取引所 名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松井 孝敏

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 黒田 英文

TEL 052-419-1827

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|-------|-----|------|------|------|-----|------------------|-----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年3月期第3四半期 | 2,570 | 0.3 | 283 | 9.6 | 312 | 7.0 | 218 | 7.7 |
| 2021年3月期第3四半期 | 2,562 | 1.2 | 313 | 11.8 | 336 | 9.1 | 236 | 7.6 |

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 209百万円 (29.8%) 2021年3月期第3四半期 297百万円 (3.4%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期第3四半期 | 82.84 | |
| 2021年3月期第3四半期 | 89.75 | |

(注) 2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。2021年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|---------------|-------|-------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 2022年3月期第3四半期 | 6,375 | 5,285 | 82.6 | 1,998.47 |
| 2021年3月期 | 6,227 | 5,158 | 82.5 | 1,951.11 |

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 5,265百万円 2021年3月期 5,140百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年3月期 | | 30.00 | | 15.00 | |
| 2022年3月期 | | 16.00 | | | |
| 2022年3月期(予想) | | | | 16.00 | 32.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、2020年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割いたしました。2021年3月期の第2四半期末の配当につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。2021年3月期の年間の配当につきましては、株式分割を行ったことにより単純計算ができないため、表示しておりません。なお、株式分割を考慮しない場合の期末配当は30円であります。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|-------|-----|------|------|------|------|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 3,399 | 4.5 | 382 | 18.6 | 385 | 10.2 | 258 | 21.9 | 97.94 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|------------|-------------|----------|-------------|
| 2022年3月期3Q | 2,634,800 株 | 2021年3月期 | 2,634,800 株 |
|------------|-------------|----------|-------------|

期末自己株式数

| | | | |
|------------|-------|----------|-------|
| 2022年3月期3Q | 226 株 | 2021年3月期 | 226 株 |
|------------|-------|----------|-------|

期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|------------|-------------|------------|-------------|
| 2022年3月期3Q | 2,634,574 株 | 2021年3月期3Q | 2,634,629 株 |
|------------|-------------|------------|-------------|

(注)2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。2020年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「発行済株式数(普通株式)」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっては添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 3 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 5 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 7 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 7 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 7 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 7 |
| (会計方針の変更) | 7 |
| (セグメント情報等) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、コロナ禍からの正常化が着実に進み、製造業全般において生産の高度化・自動化を目的とした設備投資が積極的に行われたものの、新たな変異株（オミクロン株）の感染が報告されるなど、依然として先行きが不透明な状況となっております。

このような経済状況のもとで、当社グループは「接着・樹脂加工を基盤とし、拠点相互のネットワークを最大限活かした成長事業、新規事業とグローバル展開」を基本方針として、「ソリューションビジネスの展開」「グローバル展開の推進」「成長事業・新規事業推進」「生産の合理化」「共感力の浸透」を目標に取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間は、自動車業界を中心に緩やかではありますが先送りされていた受注が戻りつつあるほか、研磨関連の製品が底堅く推移しました。また、原価低減と経費節減に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,570百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は283百万円（前年同期比9.6%減）、経常利益は312百万円（前年同期比7.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は218百万円（前年同期比7.7%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

総合接着・樹脂加工

総合接着・樹脂加工につきましては、自動車・鉄鋼業界を中心にベルト関連製品の販売が堅調に推移したほか、ディスプレイガラス向け研磨部材の販売が底堅く推移しました。以上の結果、売上高は2,197百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

特殊設計機械

特殊設計機械につきましては、新型コロナウイルス感染症による設備投資の先送りや凍結の影響がありました。以上の結果、売上高は372百万円（前年同期比16.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて147百万円増加し、6,375百万円となりました。このうち、流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べて98百万円増加し、2,967百万円となりました。これは主に、現金及び預金が33百万円減少したものの、受取手形、売掛金及び契約資産が141百万円増加したこと（前連結会計年度末の受取手形及び売掛金との比較）によるものであります。また、固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べて49百万円増加し、3,408百万円となりました。これは主に、建設仮勘定が67百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて20百万円増加し、1,089百万円となりました。このうち、流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べて19百万円増加し、694百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金20百万円増加したことによるものであります。また、固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べて0百万円増加し、394百万円となりました。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて127百万円増加し、5,285百万円となりました。これは主に、利益剰余金が136百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年9月16日の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,151,440 | 1,117,528 |
| 受取手形及び売掛金 | 710,101 | — |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | — | 851,799 |
| 商品及び製品 | 125,866 | 99,567 |
| 仕掛品 | 502,284 | 510,267 |
| 原材料及び貯蔵品 | 322,112 | 329,802 |
| その他 | 57,057 | 58,843 |
| 貸倒引当金 | △430 | △775 |
| 流動資産合計 | 2,868,431 | 2,967,034 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 1,777,085 | 1,824,287 |
| 減価償却累計額 | △1,129,151 | △1,166,318 |
| 建物及び構築物(純額) | 647,933 | 657,969 |
| 機械装置及び運搬具 | 1,360,946 | 1,351,271 |
| 減価償却累計額 | △1,212,020 | △1,216,858 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 148,925 | 134,413 |
| 土地 | 1,599,007 | 1,595,525 |
| 建設仮勘定 | 7,886 | 75,183 |
| その他 | 225,494 | 232,715 |
| 減価償却累計額 | △200,177 | △204,811 |
| その他(純額) | 25,316 | 27,904 |
| 有形固定資産合計 | 2,429,069 | 2,490,995 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 19,181 | 7,655 |
| その他 | 5,088 | 6,047 |
| 無形固定資産合計 | 24,270 | 13,702 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 793,948 | 773,003 |
| その他 | 112,706 | 131,965 |
| 貸倒引当金 | △637 | △1,185 |
| 投資その他の資産合計 | 906,016 | 903,782 |
| 固定資産合計 | 3,359,357 | 3,408,480 |
| 資産合計 | 6,227,788 | 6,375,514 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 342,063 | 362,916 |
| 短期借入金 | 20,000 | 20,000 |
| 未払法人税等 | 64,777 | 49,455 |
| 賞与引当金 | 74,737 | 42,742 |
| その他 | 173,909 | 219,883 |
| 流動負債合計 | 675,488 | 694,998 |
| 固定負債 | | |
| 役員退職慰労引当金 | 234,104 | 226,988 |
| 退職給付に係る負債 | 151,727 | 160,755 |
| その他 | 8,262 | 7,214 |
| 固定負債合計 | 394,094 | 394,958 |
| 負債合計 | 1,069,582 | 1,089,957 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 179,605 | 179,605 |
| 資本剰余金 | 275,336 | 275,336 |
| 利益剰余金 | 4,451,408 | 4,587,974 |
| 自己株式 | △189 | △189 |
| 株主資本合計 | 4,906,161 | 5,042,726 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 194,195 | 182,595 |
| 為替換算調整勘定 | 39,995 | 39,802 |
| その他の包括利益累計額合計 | 234,190 | 222,398 |
| 非支配株主持分 | 17,853 | 20,431 |
| 純資産合計 | 5,158,205 | 5,285,557 |
| 負債純資産合計 | 6,227,788 | 6,375,514 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 2,562,672 | 2,570,108 |
| 売上原価 | 1,577,909 | 1,596,541 |
| 売上総利益 | 984,763 | 973,566 |
| 販売費及び一般管理費 | 670,782 | 689,644 |
| 営業利益 | 313,980 | 283,921 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 183 | 191 |
| 受取配当金 | 15,296 | 19,503 |
| 受取賃貸料 | 4,338 | 5,523 |
| 為替差益 | — | 3,684 |
| 助成金収入 | 3,599 | — |
| その他 | 2,006 | 2,886 |
| 営業外収益合計 | 25,425 | 31,789 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 65 | 47 |
| 賃貸収入原価 | — | 3,139 |
| 為替差損 | 3,033 | — |
| その他 | 83 | 0 |
| 営業外費用合計 | 3,182 | 3,186 |
| 経常利益 | 336,224 | 312,524 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 394 | 78 |
| 投資有価証券売却益 | — | 10,807 |
| 特別利益合計 | 394 | 10,886 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 269 | 2,562 |
| 特別損失合計 | 269 | 2,562 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 336,348 | 320,848 |
| 法人税等 | 98,010 | 101,677 |
| 四半期純利益 | 238,338 | 219,170 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 1,873 | 933 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 236,464 | 218,237 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 238,338 | 219,170 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 83,041 | △11,599 |
| 為替換算調整勘定 | △23,756 | 1,452 |
| その他の包括利益合計 | 59,284 | △10,147 |
| 四半期包括利益 | 297,622 | 209,023 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 295,874 | 206,444 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 1,747 | 2,578 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純利益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来は販売費及び一般管理費として計上しておりました販売手数料等の一部及び営業外費用に計上しておりました売上割引については、売上高から減額しております。また、輸取出引については、顧客との契約条件に基づき、財又はサービスを顧客に移転し履行義務が充足された時点で収益を認識することといたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,542千円減少、売上原価は1,805千円増加、販売費及び一般管理費は12,083千円減少、営業外費用は38千円減少したことで、営業利益は735千円増加、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は774千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|---------------|------------|-----------|---------|-----------------------|
| | 総合接着・ 樹脂加工 | 特殊設計 機械 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,117,717 | 444,954 | 2,562,672 | — | 2,562,672 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 571 | 4,663 | 5,234 | △5,234 | — |
| 計 | 2,118,288 | 449,617 | 2,567,906 | △5,234 | 2,562,672 |
| セグメント利益又は損 失(△) | 316,132 | 38,941 | 355,073 | △41,092 | 313,980 |

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

総合接着・樹脂加工事業において、第2四半期連結会計期間に土地及び、建物を取得したことにより、セグメント資産が276,057千円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|---------|
| 報告セグメント計 | 355,073 |
| セグメント間取引消去 | 11,986 |
| 全社費用(注) | △53,079 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 313,980 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|---------------|------------|-----------|---------|-----------------------|
| | 総合接着・ 樹脂加工 | 特殊設計 機械 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,197,262 | 372,845 | 2,570,108 | — | 2,570,108 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 55 | 6,768 | 6,823 | △6,823 | — |
| 計 | 2,197,317 | 379,614 | 2,576,931 | △6,823 | 2,570,108 |
| セグメント利益又は損 失(△) | 335,639 | △13,385 | 322,254 | △38,332 | 283,921 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|---------|
| 報告セグメント計 | 322,254 |
| セグメント間取引消去 | 14,430 |
| 全社費用（注） | △52,762 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 283,921 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。